

野外活動プログラム


活動名	(14) キャンプファイヤー、かがり火のつどい		
内容	<p>自然の中で炎を囲み、ゲームや歌などの出し物（スタンツ）で連帯感や友情を深めます。集団宿泊活動の初期に実施することで緊張をほぐし、親睦を深める効果があります。また、最後の夜に実施することで、研修のまとめや自己を深く見つめる場となります。</p> <p>ふだんは体験することのない大きな火を囲む「キャンプファイヤー」と、かがり火台を使った小規模の火を囲む「かがり火のつどい」があります。「かがり火のつどい」は未就学児の団体や少人数の団体に適しています。</p>		
条件	場所	<キャンプファイヤー> 交流の広場、別館広場 キャンプ村広場 <かがり火のつどい> 本館宿泊棟前庭	対象 <キャンプファイヤー> 小学生以上 <かがり火のつどい> 未就学児以上
	時間	1時間～1.5時間	人数 <キャンプファイヤー> 20～200人 <かがり火のつどい> 10～100人
	時期	春～秋（冬場は要相談）	天候 雨天時不可 強風時（風速5m以上）不可
期待される教育効果	(1) スタンツを通し、友情と親睦を深める。 (2) 静寂の中、明々と燃える炎を見つめながら、自分の心を見つめ直す。 (3) 企画や運営を通して、リーダー性や協力する心を育む。		
準備物	自然の家が貸し出す物		団体が準備する物
	<input type="checkbox"/> 火の神(女神)の衣装、杖 <input type="checkbox"/> 延長コード <input type="checkbox"/> CDデッキ <input type="checkbox"/> ポータブルアンプ、マイク <input type="checkbox"/> 無線機		<input type="checkbox"/> 動きやすい服装（長袖、長ズボン、運動靴） ※化繊のものは熱で穴が開きやすい <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 音楽CD <input type="checkbox"/> マッチ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 救急用品 <input type="checkbox"/> 丸太・薪（売店で購入） <input type="checkbox"/> トーチ・着火用灯油（売店で購入可能）
展開	1. 事前（準備） (1) 当日までに下見を行い、貸出物品、危険箇所等を把握する。 (2) 当日の進行やスタッフの役割分担、練習等を行う。 (3) 当日の天候を見て、自然の家の職員と相談の上、実施の判断をする。 2. 活動前 (1) 代表者は17時までに事務室で無線機と貸出物品を受け取る。 (2) 必要に応じて売店でトーチや着火用灯油を購入する。 (3) 会場に丸太や薪等を運び、設置する。 (4) 会場に集合し、点呼、健康観察及び安全指導を行う。 (5) 事務室に点火することを伝える。 3. 活動 (1) 別掲の「展開例」を参考に、団体独自の活動を行う。 4. 事後（片付け） (1) 水で完全に消火し、残り火がないかを確認する。 (2) 事務室に消火完了の連絡を入れる。 (3) 翌朝、燃え残りの丸太や薪を灰置き場まで運び、無線機と貸出物品を事務室に返却する。		

安全管理 ポイント	<input type="checkbox"/> 実施の可否は、自然の家職員と相談の上で決定する。 <input type="checkbox"/> 引率者の目の届く範囲で活動をさせる。 <input type="checkbox"/> 夏季は虫さされに注意する。 <input type="checkbox"/> 衣服に火が燃え広がらないよう、「キャンプファイヤー」の場合は5m以上、「かがり火のつどい」の場合は3m以上、火から離れる。 <input type="checkbox"/> 周囲が暗いので、転倒等に気を付けさせる。 <input type="checkbox"/> 火事を防ぐため、火の管理を確実にを行う。(強風時、乾燥時は要注意)
--------------	---



キャンプファイヤー、かがり火のつどい実施の手引き	
引率者の 心構え	<ol style="list-style-type: none"> 1. ねらいを明確にした活動計画を作りましょう 「何のために実施するのか」「どのように活用するのか」など、活動のねらいをはっきりさせて計画を作りましょう。 2. 引率者(団体の責任者)は必ず事前の下見を行いましょう 下見をすることで、危険箇所の把握及び的確な指導法の発案などに役立ちます。 3. 活動における注意事項を徹底するための事前説明(学習)を行いましょう 夜の活動、火を扱う活動には危険を伴う場合があることや、活動のねらいをしっかりと伝えるためにも、事前説明を行いましょう。 4. 直前の気象情報を把握してから活動しましょう 長崎地方気象台HP等で天気予報が調べられます。これらの情報をもとに、自然の家の職員と相談の上、実施の可否を決定します。 5. 活動中は環境への配慮を取り入れましょう 森の美しい環境は、絶妙なバランスの上に成り立っています。環境に負担をかけないように十分配慮しましょう。 6. 事後学習の機会を設けましょう キャンプファイヤー等で築かれた人間関係など、ねらいに合わせた振り返りをしましょう。
安全な活 動のため の準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 服装, 装備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 長袖、長ズボン、防寒具の着用 <ul style="list-style-type: none"> ・自然の中での活動は、夏でも長袖、長ズボンが基本です。肌の露出は控えましょう。 ・自然の家周辺の気温は、平地に比べ約3℃低くなります。体調を崩さないように、防寒具を準備しましょう。 2. 事故に備えての対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 傷病者が出た場合、誰がどのように対応するかを事前に決めておきます。 (2) 引率者は、絶えず参加者の健康状態を確認することが大切です。
自然の家 来所前に 指導して いただき たいこと	<ol style="list-style-type: none"> (1) 活動前に服装などをお互いに点検する。 (2) 活動中は、集団行動をとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・単独行動は、やけどやけが等の原因になります。 (3) 防寒着をこまめに脱いだり着たりして、体温調節を心がける。 (4) 帰着時はきちんと靴の泥を落とす。
活動中止 等の基準	<ol style="list-style-type: none"> (1) 落雷の危険がある際には中止する。 <基準>・雷警報が発令されている。または、雷鳴が聞こえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・雷注意報発令中で、気象レーダーで雷雲の発生が見られる。 ・自然の家事務室のサンダーメーターが作動した。 (2) 強風の危険がある際には中止する。 <基準>・自然の家事務室の風速観測機が風速5mを越えた。 <p>※実施に不安がある場合は、遠慮せず事務室に相談にお越しくください。</p>

キャンプファイヤー・かがり火の準備と片付け

1. 準備の流れ

<p>(1)</p> 	<p>(2)</p> 	<p>【安全のために】</p> <p>①山火事との誤認を避けるため自然の家から消防署に連絡します。 点火の直前、消火の直後に無線での連絡をお願いします。</p> <p>②消火後、完全に火が消えたことを確認してください。</p> <p>③ふだん体験しない大きな火を囲む活動は、気分が高揚し、思わぬ事故が起こりやすくなるため、注意喚起が必要です。</p>
<p>17時までに事務室で無線機や貸出物品を受け取ります。 音響機器や衣装等の借用も、17時までに申し出てください。</p>	<p>必要に応じて売店でトーチ、灯油等を購入します。 ※運搬時等、<u>灯油の取扱いには十分注意してください。</u></p>	
<p>(3)</p> 	<p>(4)</p> 	<p>(5)</p> 
<p>倉庫から丸太と薪を運びます。 【倉庫の場所】 ・レストラン横の倉庫（写真）</p>	<p>交流の広場で実施するときは、丸太を置くための土台を組み立てます。 ※非常に重いので注意</p>	<p>水道の場所等、消火環境を確認しておきます。 【水道の場所】 ・交流の広場：広場の階段の下 ・別館広場：別館の玄関前 ・キャンプ村：炊事場前 ・本館宿泊棟：バケツ対応</p>
<p>(6)-①</p> 	<p>(6)-②</p> 	<p>(6)-③</p> 
<p>丸太、薪の組み方 （交流の広場） ※丸太8本、薪2束を使います。</p>	<p>丸太、薪の組み方 （別館広場、キャンプ村） ※丸太8本、薪2束を使います。</p>	<p>薪の組み方 （かがり火のつどい） ※薪3束を使います。</p>

2. 片付けの流れ

<p>(1)</p> 	<p>(2)</p> 	<p>決められた所に炭を捨てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の広場 →広場内の灰置き場 ・別館広場、キャンプ村 →野外炊事場の灰置き場 ・かがり火 →ピロティまたは多目的広場にある半切りドラムの中
<p>ほうき等の掃除用具を使って燃え残りの炭を集めます。</p>	<p>【片付け時の注意】</p> <p>①キャンプファイヤー、かがり火の炭の片づけは翌朝9時までに行ってください。</p> <p>②無線機や貸出物品等も翌朝に返却してください。</p>	